資料２

第８回熟議『学校選択制』（8 月 8 日）Ｂグループ　主な意見とまとめ

【主な意見】
（指定外就学基準の拡大について）

○　指定外就学基準を拡大することは、一方で保護者にとっては良いが、大阪の場合は校区が根底にあるので、基準を拡大し過ぎるのは、学校の基盤や地域の関係から疑問がある。

○　現行制度の運用を弾力的にやろうというのが指定外就学の拡大だと思うが、それは学校選択制に踏み込んで行く事になると思う。決定的な違いは指定外就学の場合はなんらかの理由を明確にしないといけないが、学校選択制の場合は理由を求めずに、保護者に自由に選択の権利があるところだと思う。
　今の指定外就学の基準を拡大しようということならば、学校選択制に踏み込んだ方が自然だと思う。指定外就学だとどうしても理由を書き連ねて該当するかどうかを判断しなければならなくなるので、拡大して行こうという方向性があるならば、学校選択制を導入し、自由の幅を大きくした方が保護者にも受け入れられると思う。

○　指定外就学制度そのものは、学校選択制によって必要なくなることにはならないと思う。逆に指定外就学の拡大で、多くの希望や期待が今まで以上に満たされるなら、学校選択制は不要になるということも考えられる。

○　学校選択制を導入しても指定外就学制度は必要になると思う。学校選択制というのは就学する前に親や子どもが学校を選択するということで、指定外の就学を申請する子どもたちは、就学した後、いろいろな事案が出てきての対応となるので、残さなければならないと思う。

○ 指定外就学の基準を広げることによって選択制に近づくと思う。保護者が校区にある学校でなくて別の学校を選ぶ場合は、やはり子どもの将来のことを考えて選ぶと思うので、そこに違う学校を選ぶ条件なり基準なりがあると思うので、指定外就学の条件のなかにそれを組み込んでいけば、選択制に近づくと思う。

○　いじめの対応であるとか、地理的な面や通学面で困っているお子さんがいるという問題がこの熟議で分かってきたが、少なくともそういう問題については指定外就学基準の拡大で解決することが一番好ましいと思う。
　学校選択制は、また違う制度であるので、基本的には抽選ということになるが、指定外就学で上げられた理由はどれも抽選に馴染まない、どうしても満たさなければならない優先的な事由があると思うので、指定外就学をどの程

度緩和するべきかというのは、意見をどこかで集約した方が良いと思う。

（学校選択制のメリット・デメリットについて）

○ 学校選択制は自由に選べるのは良い事であると思うが、同じ学校に偏ったり、ここの学校は評判がよくないということで、みんなが違う学校を選んでしまったりして、ここの学校は人がいなくなってしまったとか、極端な事が起りえることも考えられるので、うまく機能するように考えないといけない。
　また、選択可能なのが、小中学校入学時１回だけという議論が以前あったが、入学してから思っていた学校と違うということも、選択した場合、特にその思いが強くなる事が考えられるので、例えば、指定外就学のように１年１年で見直しができる制度もあっていいと思う。

○ 就学制度をあまりころころ変えるのは、そこで学んでいる子どもにとって、あまりメリットはないので、１年単位で考えるのではなく、少なくとも小学校であれば６年の長いスパンで就学制度を見ていくべきだと思う。

○ 学校選択制は、保護者がどんな理由であっても自由に選べるというところがメリットだということだが、多くの保護者の希望を叶えるとすると、どんな理由でも良いので、ある学校に偏るのは必然であり、大きなデメリットがある。そのデメリットを小さくしようとすると、結局、抽選ということになるので、希望が叶えられる保護者はごく少数になる。その方たちのために、ここまで大きな制度変更をする必要があるのか疑問に思う。
　ある人気校が５名までしか行けない場合、１００名の希望者が殺到することになると、かえって不公平な制度のようにも感じる。むしろ、今凄く困っている方を最優先に考えた時に、更に枠が必要になると思う。
　結局、抽選で当選した保護者の、あまり理由のない希望だけが実現されることになると思う。それに比べると指定外就学の理由というのは合理的な理由があるので、実現する可能性は高いと思う。

○ 学校選択制を導入するメリットとして学校の活性化や特色づくりがあるが、実際に実施している東京では２割程度の方が選択されているが、以前に比べてあまり変わらないのではないかと思う。一部の保護者の希望だけ叶えて、学校全体としてのメリットがほんとうにあるのかどうか検証されているかが見えてこないので、学校選択制を漠然と議論していくのは難しいと思う。

○ クラブ活動でいうと、例えば野球やサッカーというメジャーなスポーツでスペースの関係等で指定校にクラブがない場合、2～3校の協力体制でなんとかなるのではないかと思う。中学生になって自分のしたいクラブができないというのはデメリットだと思う。

○　進学先の中学校が、仮に荒れた状況になった場合、多くの人が希望して指定外就学の手続きをとり、その範囲に入れなかった子は、その学校へ行かざるを得ないということが起こり、やはり、行きたいところに行くということと、行きたくないから別の学校を探すということの一つの手段になっていく可能性があると思う。

○　公立校の一番のネックは、先生が人事制度でいつかは変わってしまうということで、学校の特色というと先生の特色になると思うが、ある中学校のあるクラブが強かったが、先生が変わってしまったので弱くなるとうことが実際に発生しているので、ある程度人事的な措置がされるのであれば良いと思う。

○　学校選択制にすると、おそらく保護者もそれぞれの教育活動の内容を見て学校を選択するのではなく、校舎が綺麗とか、運動場が広いとか、標準服か私服か、色は茶色か紺か、というような選びどころになると思う。そういう意味では開けた学校ということで、学校の教育内容を公開していく良い機会だと思うが、小学校の場合は近い方へ行かそう、近所のおじちゃんやおばちゃんの目があるところへ行かせた方が安心という選択で、校区の学校を選ばれる事も多いと思う。中学校の場合は、やはり部活動で選ばれることが多いと思う。

○　学校案内が作成されるとなれば、中学校の場合は、どこの高等学校に何人進学したのかを表していくと思う。数字によって、何点とかではなく、何人というような形で示していくのではないかと思う。小学校の場合は、他と比べるというようなことはあまりしないので、テストも学校独自で作ったものなので、隣の学校と比べても意味がないと思う。

○　学力というのが矮小化されてしまう懸念があり、学力テストの結果であったり進学先であったりになってしまいかねないが、学力とは生涯にわたって自分でいろんなものに関心を持って学んでいこうとする力やその学び方を身につけるということだと思うので、そういうことを教えていくのが本来の義務教育、小学校中学校の間だと思う。

○　子どもがここまで意欲が持てたというようなことが何かで表せることができれば良いのだが、学力テストだけで序列化されると弊害ばかりがあり、上の子は良いが、下の子は意欲がそがれると思う。

○　意欲が高まったというようなことを学校案内に表したとしても、保護者はおそらく数値で学力を図ると思う。
　公立の小中学校で、塾でやっているようなことをするのかどうかだと思う。